

直方ミニバスケットボールクラブだより



「自己選択と自己決定」は
これからの教育のキーワード



2018年卒部生の次の一步

先日、2018年3月卒部の2017年度6年生のメンバー（男子2名、女子3名）がそろって中学校卒業と高校進学の見聞に来てくださいました。引き続き、バスケット選手としてがんばる道を選択した子、勉強をがんばることに決めて学校を決めた子、これまでとは違ったものにチャレンジしてみたいと考えている子、5人それぞれが、自分で決めた進路（志望校）に進むことを報告してくれました。「自分で決めました」のことがうれしかったです。自分で選んだからと言ってうまくいくかどうかは分かりません。つまづいてしまうこともあるでしょう。そのとき、どうするかが問題です。立ち上がってまた前に進む力をもっているかどうか、そこが問われます。自力で立ち上がることができるのも力ですが、支えてくれるつながりをもっていることも大切な力です。

次代を生きる子どもたちに求められる力

これからの教育を語る中で、「自己選択と自己決定」という表現が頻繁に用いられるようになってきました。社会の急速な変化に伴い、この先を見通しにくい社会、誰にも予測することが難しい社会、そして、これまでに誰も経験したことのないことが起きる社会になっていると言われていきます。私たちおとなが経験してきたことが次代を生きる子どもには使えない社会になってくると言われています。教え授ける伝える教育では、これからを生きる子どもたちの力にはならないということです。知識は蓄えなくても、パソコン、インターネットの発達により、容易に手に入れることができるようになってきました。ちょっと調べれば膨大な量の情報量を手に入れることができます。今後、学校教育にも積極的に取り入れられようとしています。必要なのは、膨大な情報から確かなものを選択する力、そしてなすべきことを決定する力、さらには行動（表現）する力です。

ただし、情報は、インターネットからのものだけではありません。人との直接対話によって得られる情報も貴重です。この情報を得るためには、人とつながる力（信頼関係を育む力）が必要です。豊かな人とのつながり、人との豊かなつながりを育ておくことで、豊かなそして確かな情報を得ることができます。そのためには単なる“聞く”ではなく、しっかり耳を傾けて“聴く（傾聴する）”力が必要です。

このようなことから新しい教育の重点として、「主体性」「対話」「深い学び」があげられています。

これからの時代を生きる子どもたちは、私たちおとなにもわからない問題に直面するでしょう。私たちには、手の届かないところで問題に直面するでしょう。そのとき、“自分で考え判断し行動する力”が必要になってきます。